



## 第109号 2013年1月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

### 主な内容

|                         |           |
|-------------------------|-----------|
| ズームアップ 山本哲也(東京都)        | ..... P4  |
| 夢追人 戸嶋由香(東京都)           | ..... P6  |
| 山田フルーツファーム 山田克也(萩市)     | ..... P8  |
| 萩まちじゅう観光パフォーマー 小池太一(萩市) | ..... P9  |
| 聞きかじり歴史散歩⑨「山根正次とその時代」   | ..... P12 |

見島出身の河内直子さん（萩高平成7年卒）が、広瀬 献さん（東京都）と、2011年5月に故郷の島で挙げた婚礼風景の写真です。「故郷が変わらずそこにあるというのは代えがたい安心感につながります。変わらない風景、人々、変わらない時間の流れ。私は母を失っているのでも、せめて人生の門出を母と同じ家で迎えたかったです」と広瀬直子さん。

「都会って田舎にはないものばかりが何でもあって。でも、見えるものだけが存在するんじゃないって、田舎だからこそ見えないものでもそこにありますよね。こんな結婚式ができる見島に生まれ育ったのは私の誇りです。都会や海外に出たことで、心の中の故郷の大きさを改めて感じました」

## 見島の花嫁 ~30年ぶりの結婚式



## 川上地域にトーフレ株式会社(大阪市)が進出！ 創業者が萩市出身の金属加工メーカー

市では、2012年4月に「経済再生・企業誘致推進課」を新設し、2005年の市町村合併以来改めて企業誘致を進めています。この度、大阪に本社を持つ「トーフレ株式会社」の新工場を、萩市に建設することが決まりました。

トーフレ(株)は、日本のステンレスフレキシブルチューブ業界のパイオニアとして業界を牽引してきたトップメーカーで、現在は海外においても事業展開を行っている企業です。また、創業者の三隅田悦朗さんは萩市平安古出身で、現在の中野勝利社長は萩商工高校(秋商業高校昭和57年卒)OBであり、毎年、萩商工高校の卒業生を採用するなど、萩市と縁の深い企業です。

以前から、滋賀県にある2つの工場と長門市油谷にある工場を統合した新工場の建設地を探されていたところ、萩市の誘致条件も検討され、実現したものです。

この企業進出によって、萩市における雇用機会の増加に伴う定住促進、市内の消費効果等による経済波及効果など、萩市の活性化に大きく寄与することが期待されます。

### ▼進出計画概要

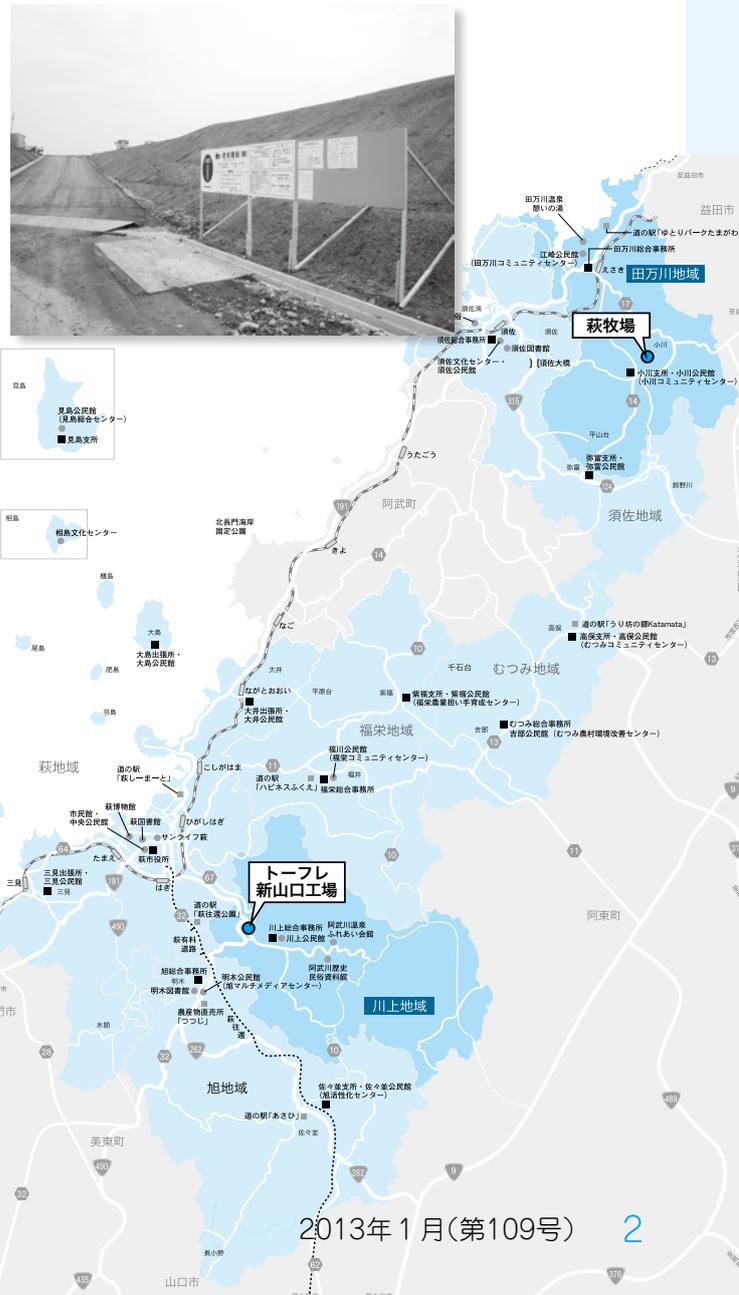
- 事業名称 トーフレ新山口工場
- 製造製品 金属製フレキシブルチューブ、建築設備用フレキ、伸縮管継手、PTFEホース、シリコンホース他
- 建築計画 事務所兼工場棟1万1700㎡、開発センター550㎡、第1期 1万2250㎡、第2期 4950㎡
- 建設場所 萩市川上白上
- 敷地面積 2万9318㎡
- 着工予定 平成25年6月
- 操業予定 平成26年6月
- 投資額 建物約10億円、設備約9億円
- 生産額 立上時20億円/年、計画完了時30億円/年
- 従業員 立上時90人、計画完了時150人

### ■問い合わせ

萩市経済再生・企業誘致推進課  
0838・25・3811



フレキシブルチューブ



## 田万川地域小川に松永牧場(益田市)が進出！ 萩市が山口県下最大の肉用牛生産地域に

根県益田市で西日本最大規模の肉用牛経営を行っている「農事組合法人松永牧場」が、萩市田万川地域に「農業生産法人株式会社 萩牧場」を設立し、1700頭を飼育する大規模な肉用牛牧場の建設計画を進めています。

国の「強い農業づくり交付金」を活用し、田万川地域中小川の原山台(旧みづほ農産養鶏場跡地)に、畜舎1棟(約1700頭規模)、

計画頭数の肉用牛が生産されることになれば、萩市が県下最大の肉用牛生産地域(管内飼養頭数約1900頭↓約3600頭)と

なるとともに、県内家畜市場の活性化や飼料用米供給による萩市管内の水田等への生産調整の効率化、農業生産法人の立ち上げによる地域雇用の創出など、農業振興はもとより地域振興の活性化が大いに期待されます。

### ■松永牧場の概要

- 住所: 島根県益田市種村町1780番地1
- 資本金: 1,194万円(昭和48年8月設立)
- 飼養規模: 肉用牛約6,000頭、乳用牛約300頭(農場3か所)
- 売上高: 約18億円
- ※常時雇用25人、牛肉の販売やレストラン等を全国展開

## 萩商工ラグビー11年連続 19回目の花園へ!



萩商工高校ラグビー部は、11月23日、山口県大会決勝で、33対13で大津・大津緑洋高校を下し、11年連続19回目の花園行き

の切符を手に入れました。今年、主力選手が故障で長期離脱し、ベストメンバーは約半年ぶり。先制点は許したものの、前後半合わせて5トライをあげ、大津・大津緑洋を突き放しました。



ともひろ 藤田智大主将  
(3年、萩東中卒)

「今年チームワークが良い。調子は上がっているので、フォワードがねばり、バックスでつなぐという萩商工のプレイスタイルで、まず1勝を目指します」

## 萩高校合唱部3年連続 全国大会へ出場 銀賞獲得



10月27日に鹿児島市民文化ホールで開催された「全日本合唱コンクール全国大会」に中国5県代表として萩高校合唱部が2年ぶり3回目の出場を果たし、銀賞を受賞しました。

顧問の有富美子先生は「2年ぶり3年連続で全国大会に出場することができました。本番では一人ひとりが気持ちを歌詞に

乗せて堂々と演奏し、強豪ぞろいのBグループ銀賞を受賞しました」と話しました。



あおい 富川碧生部長  
(3年、萩西中卒)

「今年は声量に厚みがある。伸び伸びと、明るく、自由に歌うのが萩の特徴」

この大会は、全日本合唱連盟主催による全国で最も権威のある合唱コンクールで、33人以上のB部門へは21校が出場し、萩高校は56人での挑戦でした。

旧年は内にあつては政治の混迷、経済の停滞、外にあつては尖閣諸島等の問題など文字通り内憂外患の苦難の一年。年末の総選挙により誕生した新政権には、この難局を乗り越えるべくしっかりと取り組むことを期待したいと思えます。

### 苦難を乗り越えた幕末・維新の萩物語を学ぼう

本年は、1863年(文久3)、攘夷実行、長州ファイブの密航留学、奇兵隊結成から150年の節目の年となります。萩藩は翌年の元治元年、欧米列強との馬関戦争、また禁門の変により朝敵の汚名を着せられ長州征伐が始まります。萩藩は四面楚歌、絶体絶命の危機に陥ります。しかし苦節5年、藩論を統一し、身分を越えた兵制を敷き、松下村塾門下生を主軸に苦難と激動の時代を切り開いてい

### 経済の振興と再生に全力を

企業誘致には担当課を設け努力を重ねてきましたが、このたびは市とゆかりのある㈱トフレの工場進出が決まりました。規模は小さいものの、かつて米国のスーパーマーケットの排気管にこの会社の製品が採用されるなど技術面では著名な会社です。進出により雇用等多くの経済効果が期待されると思います。

また、畜産分野ですが、田万川の小川地区に㈱松永牧場が進出を決め、現在畜舎等の工事が進められています。1700頭の牛の飼育を計画と聞いています。重要な経済基盤の南北・東西の自動車道の早期整備は、日本海側の企業や住民にとって不可欠のもの、今後は関係者あげて運動を展開してまいります。ご協力・支援の程、よろしく願います。

末尾になりましたが、本年の皆様のご多幸をお祈り申し上げ新年のごあいさついたします。



新春のごあいさつ  
萩ネットワーク協会会長  
萩市長 野村興兒



# 女優の紺野美沙子さんが 32年ぶりに萩再訪 NHK連続テレビ小説 「虹を織る」 思い出の藍場川

32年ぶりに萩に参りました。  
心も大切に!!



△32年ぶりの萩(2012年)  
◁藍場川のロケ風景(1980年)



「いい日旅立ち」ポスター(1980)

女優の紺野美沙子さんが、10月21日に行われた男女共同参画フォーラムの講師として萩を訪れ、同時に開催された「虹を織る」の萩ロケ写真展を見学しました。

紺野さんは「萩は32年前と変わらぬ風情で安心しました。ロケでは藍場川のシーンが思い出に残っています」と当時を振り返り、「ロケのときは萩の皆さんに熱烈に歓迎してもらったことをよく覚えています。役作りで萩弁を特訓しましたが、『そうであります』『うちは宝塚に行くので』『はがいい』など外国語を学ぶようでした。」「萩は女優としての原点」と話す紺野さん。展示を見学後、一番の思い出の藍場川を再訪し、気持ちを新たにしました。

紺野さんは、昭和55年(1980)、慶応大学在学中に、NHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロインを演じ人気を博しました。「虹を織る」は、昭和55年の10月から翌年4月まで放映。萩に生まれた主人公が思春期の若い情熱を宝塚の舞台に注ぎ、退団後も新しい生き方を求め続けたことを明るく描いた物語。ヒロインは昭和12年(1937)に高等女学校に通っているという設定で、萩の各所で収録が行われました。

紺野さんはその後、テレビ・映画・舞台と多岐にわたって活躍、平成10年(1998)から、国連開発計画親善大使として、アジア・アフリカの途上国を視察するなど国際協力の分野でも活躍。平成22年から朗読劇「紺野美沙子の朗読座」を主宰し、各地で公演しています。

展示写真は、当時の萩市民らが撮影したロケ写真を中心に、挿入歌のレコードやサイン色紙、ポスターなどの「虹を織る」関連資料、今も変わらない市内の風景写真など。

展示写真は、当時の萩市民らが撮影したロケ写真を中心に、挿入歌のレコードやサイン色紙、ポスターなどの「虹を織る」関連資料、今も変わらない市内の風景写真など。

## 萩博物館

08368・256447

### 企画展

「マーシャル100年in萩」  
城下町近代化のあゆみ

4月7日  
まで

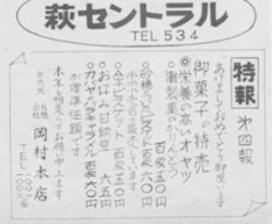
萩地域におけるポスター、新聞折込チラシ、映画の上映案内、商店の宣伝用マッチやうちわなどを通して、近代化の歩みを再発見し、さまざまな記憶を呼び起こすことができます。

鮮明な明治末年の古写真、明治・大正時代の広告、懐かしさを覚えるホーロー看板、マッチ、うちわなどの販売促進グッズ、1950年代の新聞折込チラシ、「古き良き伝統の残るま

観覧料 大人500円、高校生300円、小・中学生100円  
■駐車場 300円(萩市民が同乗の場合無料)  
◎年中無休 年末年始も開館



株式会社新発足記念大売出し  
八木百貨店



陽のあたる場所(1951)  
萩セントラル

「ディスカバー・ジャパン」ポスター(1970)「アンノン族」ブームのきっかけとなる

# 夢追人

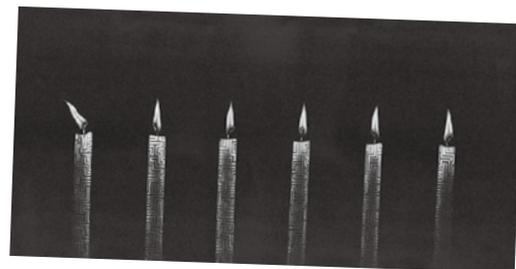
とじま よしか

## 銅版画家 戸嶋由香さん

(萩市平安古町出身、萩工業高昭和58年卒、47歳)



Eat up the world(zebra)



candle maze(burn the delusion)  
35cm x 70cm 2012年

現在、東京都国立市にアトリエ・PIC銅版画スタジオを構え、日本版画協会展の奨励賞、JACA日本ビジュアル・アート展の銅賞を受賞するなど、国内外で作品を出展している銅版画家・戸嶋由香さん。2012年11月30日〜12月9日、地元・萩での初の個展「卓上迷図―Maze of table―」を萩城下町・彩陶庵ロフトにて開催され、この機にお話を聞きました。

### ものづくりが好き

「小さい頃から、図工の授業が好きでした。また、おもちゃを買ってもらえないから、粘土で何かを作っては壊して、また作って遊んでいました。」

戸嶋さんは、高校時代、萩工業道部に在籍。厳しい練習の息抜きに、絵を書いたり、バンド活動をしている友達にTシャツを作ったりと、体育会系に身を置きながらも、空いた時間に創作活動をして

いたとのこと。転機となったのは、高校卒業時。大学に進み柔道が続ける道もあつたが、絵やデザインの道でやっていきたいと、周囲の反対を押しつけ、説得し、山口芸術短期大学に進学。在学中は芸術を広く浅く学び、卒業後も研究科に身を置き、銅版画に詳しい先輩と出会い、その魅力を伝えられるたびに、銅版画の世界にはまっています。

### モチベーション

銅版画家として歩むため東京し、当時、唯一の版画専門コースがあつた創形美術学校に進学。卒業後も同校で助手として身を置き、銅版画家には必要不可欠なプレス機を購入。目標であつたアトリエ設立に向け、多くの芸術家がそうであるように働きながら睡眠時間を削り、制作活動を行う。

「どの芸術の世界も作家活動一本で生計を立てられる人はひと握り。多くの人が学校で講師をしながら、カルチャーで教えるながら、バイトをしながら活動をしていきます」と、現在は阿佐ヶ谷美術専門学校非常勤講師として働きながら、制作活動をし、展示会を開く生活を送っている。

そのような生活を送るモチベーションはどこにあるのかと尋ねると、「昔はコンクールに出展し、賞を取ることで何かが変わるので

はないかという気持ちで活動していましたが、今は、展示会を開き、会場に足を運んでくださる方とコミュニケーションを取り、いろいろなことを感じとれる喜びがモチベーションとなっています」。

### メッセージ性

そんな戸嶋さんの作品は、動物や植物をモチーフとしたものが多く、自然や環境破壊をテーマとし、またテールウェアを描くのは、食品添加物やファストフードなどによる食生活や食文化への危惧を表現している。

「昔から風刺画が好きで、作風もそうだったと思います。また、テレビを通して見るニュースは距離感を感じていましたが、震災、鳥インフルエンザ等、身近にある不安を感じ、そのリアルな不安をおおるだけのものではなく、楽しみながら誰もが考えなくてはならないものとして表現しようと思いました」。

実際に作品を見ると、パーツの一つひとつが何を表現しているのか、謎解きやすくも与えられているようで、連想しやすくもあり、戸嶋さんが発信するメッセージを感じる楽しみがそこにある。

### 銅版画文化の可能性

「欧米にはある絵を贈る習慣が日本には無い。自らが好む画家の

絵を贈ることは、文化的コミュニケーションを生み、贈り側のステータスを上げます。その中でも版画絵は丸めて送ることもでき、一つの原版から何枚も刷ることができるので、一点物の作品に比べ、気軽さがあるはず。また、浮世絵が世を風靡した時代もあり、日本から銅版画の新しい文化を発信する可能性も秘めているのではないかと思います」。

制作活動だけでなく、個展ではワークショップを開催し、銅版画の魅力を多くの人に伝えるべく、普及活動にも力を注いでいる。

「いつかは萩に戻り、萩から銅版画文化を発信したい」。

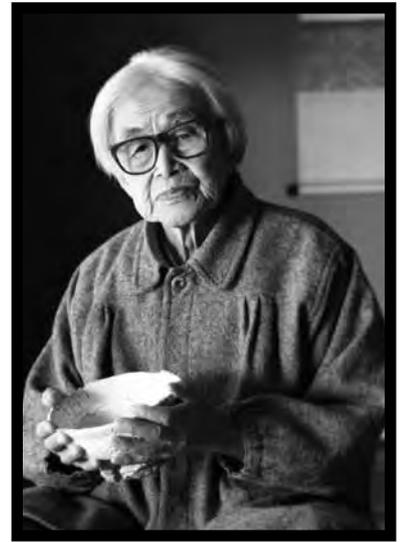
### 問い合わせ

PIC銅版画スタジオ  
〒186-0003 東京都国立市富士見台1-44-24  
☎042-573-3080

【プロフィール】1965年生まれ。明倫小学校卒、指月中学校卒、83年萩工業高校機械科卒、85年山口芸術短期大学生活芸術家デザインコース卒、86年同校研究科修了、90年創形美術学校版画科卒、日本版画協会会員

【受賞歴】1989年山口県美術展覧会(優秀賞)、92年・93年・99年日本版画協会展(奨励賞・山口源新人賞・準会員優秀賞)、94年JACA日本ビジュアル・アート展(銅賞)、96年・98年さっぽろ国際現代版画ビエンナーレ(スポンサー賞)

三輪壽雪さん  
死去



おにはぎょうへんわりこうだいちゃん  
鬼萩窯変割高台茶碗  
2006(平成18)年

全国最高齢の人間国宝(国の重要無形文化財保持者)で萩焼作家の三輪壽雪(節夫)さんが、12月11日、老衰のため102歳で亡くなり天寿を全うされました。

90歳を過ぎてても料理や自転車に乗って買い物をしたり、家庭菜園で畑仕事などでもできる範囲で自分でしてきたという。素材で気さくな人柄で、飾り気のない方でした。

長男の12代休雪さんと三男・和彦さんら家族約10人に見守られ、安らかな顔で、気骨にあふれた表情で逝かれたそうです。

1967年、隠居した兄・休和の後を継いで11代休雪を襲名、83年に休和に次いで萩焼で2人目の人間国宝となり、兄弟で人間国宝になるという陶芸史上前例のない快挙として話題になりました。2002年には萩市名誉市民に、03年には壽雪に改名し、長男の龍作さんが12代休雪を襲名。06、07年に回顧展「三輪壽雪の世界」を萩美術館・浦上記念館をはじめ東京、名古屋、茨城、福岡で開催。

休雪白と呼ばれる莫灰の釉薬を用いた柔らかい純白の色調と卓越した造型感覚で茶陶の世界に新風をもたらした、独自の「鬼萩」を世に問うたのは、人間国宝に認定された

2年後、実に75歳の時でした。

人間国宝に認定された83年、73歳頃から、砂を多く含んだ土

を使い、ざらざらとした荒々しい仕上げの「鬼萩」に取り組みました。2年後に、十字割りした大振りの割高台をともなう「鬼萩割高台茶碗」が発表され、円熟した境地から始めた「鬼萩」への挑戦はライフワークとなりました。

純白の釉薬が際立つ「休雪白」と、器を支える大ぶりの高台に大胆な切り込みを入れた「割高台」が合わさり、そこに圧倒的な存在感が生まれた。

「飲みやすさや扱いやすさなどの機能面ではなく、造形という意識で制作した最初の人間ではないか」と12代休雪さん。「作品は手にとつて安らぎを覚え、明日への希望を生まなければならない」が壽雪さんの持論でした。

心からご冥福をお祈りいたします。

2013年1月19日から菊池寛実記念智美術館(東京都港区)で、「三輪壽雪・休雪―破格の創造―」展が開催されます(3月31日まで)。14ページ参照。

今春に旭地域の中学校統合へ  
佐々並中学校は閉校



佐々並地区の児童・生徒数は、小学生が平成2年の69人が24年には22人へ、中学生が平成2年の42人が24年には9人と激減しています。保護者から旭地域の明木中学校と佐々並中学校の統合についての要望書が提出され、萩市教育委員会では、平成23年10月に旭地域中学校統合推進委員会を設置し統合に向けた協議を進め、平成25年4月1日に佐々並中学校を明木中学校に統合する方針を決定しました。

昭和22年に開校した佐々並中学校は、地元はもとより全国各地で活躍している1,700人を超す卒業生を輩出し、66年間の輝かしい歴史に幕を閉じます。佐々並中の新たな門出を祝福しようという思いから、3月30日(土)に閉校式、記念碑除幕、思い出を語る会など閉校記念事業が予定されています。

阿武町ふるさとカレンダーを全国に発送!

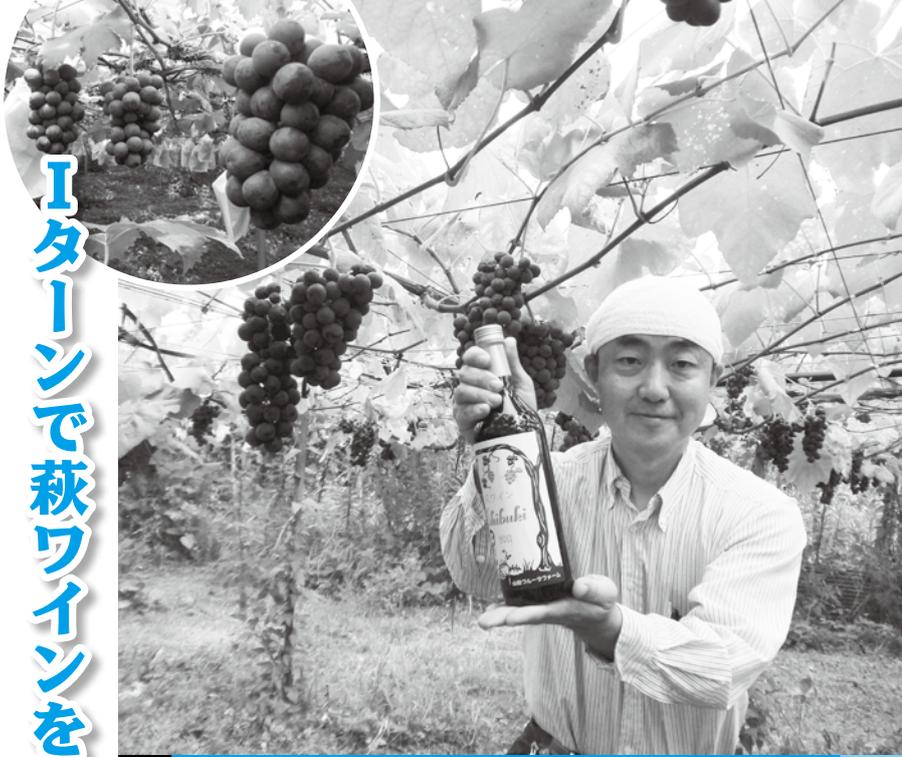
在庫はわずかです。希望者に1部500円送料込みで販売。阿武町役場総務課(08388・2311)まで。



ふるさと阿武町を懐かしんでいたこうと毎年製作し、23作目の平成25年版は「空の上のあぶ散歩」をテーマに、航空写真で町内各地域をとらえました。夕日に染まる奈古の海、福賀盆地の広大な農地、惣郷の鉄道、宇田の海辺など。町内の全世帯と全国から予約のあった約400人に発送しました。

阿武町トピックス2012

- ▽阿武町役場本庁舎の耐震化改修が完了(3月)
- ▽道の駅阿武町の2014年4月リニューアルオープンに向けたイメージパースを公表(9月)
- ▽コミュニティワゴン運行事業を開始(10月)100円のワゴン車が週2回運行。
- ▽奈古中央消防器庫が完成(10月)



## 山田フルーツファーム

山田 克也さん (紫福、47歳)

# Iターンで萩ワインを開発

2010年に発売が開始された萩のご当地ワイン「萩ワイン」の生産者であり、山田フルーツファーム(紫福)の代表である山田克也さんにお話を聞きました。

## 一からのモノづくり

生まれは下関ですが、父親が教員でしたので、幼少のときはちょっととした転勤族。

大学は県内の工学部工業化学科と理系。卒業後、大阪の印刷会社に就職し、農業とは全く違う世界で生きていました。そんな私が農

気持ちと重なり、脱サラし、一からモノを作れる農業者への道を歩むことを決めました。

## 苦難の連続

農業を始めるなら、土地感のある地元山口でと、当時の山口県就農支援センターに問い合わせ相談すると、旧福栄村の農事組合(法人・平原台農業生産組合)を紹介されました。

就農して2年間は研修制度の助成を受け、後に法人の組合員となり、高齢組合員の品種アーリーの古いブドウ園を継承し、また新しいブドウの品種ピオーネを新植し、ハウスを建てたものの、育成に数年かかり、なかなか収入にならず、このままでは…と思ひ、さらにアーリーのブドウ園を借り受け、規模拡大し収入を得ながら、まず単価の高いピオーネの栽培技術の習得から始めます。

そして、何とか専業でやっていけそうな規模まで生産量拡大へと兆しが見え始めるのですが、イノシシの被害、台風などの災害に加え、資材や燃料代の高騰などで、とうとう自己資金も底をつきました。リスクの高い従来やり方では将来への希望が見えず、経営方針を決める共同経営にも世代間のギャップもあり限界を感じていました。

## 独立

状況が変わったのは、今から4年前、法人からの脱退を決意し、資金調達ができてからです。組合の人からも独立の承諾を得、創業へとたどりつきます。

まず取り組んだのは、安定した収入を得るために、歩留まりを上げることで、商品を差別化し販売方式の改善に力を入れることでした。そこで、就農当初から作り続けていた品種アーリーが、近年の異常気象の影響を受けやすく歩留まりが悪かったため、ワイン用に栽培方法を見直し、品質の良いワインの原料にすることを考えました。また酒類小売販売業免許を取得し、自分のブランドで販売することで、収入が安定することを計画しました。

さらに前職の経験や趣味・特技を生かしてブドウの箱やワインのラベルなどのデザインも妻の協力を得ながら手がけることで、商品に対する誇りと責任を家族で共有し、楽しく仕事を続けることができるようになりました。

## 兆し

そうして、2000年秋、「萩ワインShibuki」限定500本を初出荷。色の濃いフ

レッシュで甘口の赤ワインが完成し、特に女性の方に好評で、多くの方が宣伝協力してくださったお陰で、500本はすぐ完売。

市内にある道の駅などでも販売させてもらったことは、とても幸運なもので、翌年は800本、2012年は1000本と次第に生産量も増えました。本業の生食用のブドウとともに萩の特産品としても認知していただき、事業が軌道に乗る兆しが見え始めました。今後は商品の種類を増やし、需要雇用を考えながら、農園や地域の魅力を伝える活動をし、将来、規模は小さくても自社醸造までたどりつけばと思います。

将来のビジョンは広がりますが、度重なる苦難を乗り越え農業を続けられたのは、地域の方々やお客様への温かい応援と妻の支えが基本にあり大変感謝しています。収入も大切ではありますが、まずは今までどおり、こだわりと誇りを持って楽しく仕事を続けていきます。

**山田フルーツファーム**  
 住所: 〒758-0501  
 萩市大字紫福 8074-9  
 TEL: 0838・53・0014  
**萩ワイン** 紫福・平原台のブドウ100%を使った赤ワイン(甘口)。(1980円、道の駅・萩往還)



# 萩まちじゅう 観光パフォーマー

## 小池太一さん

(萩市椿東中小畑、萩高昭和46年卒、60歳)

しい形の観光集客へ取り組む。その観光パフォーマーに2年連続で就いた小池太一さん（萩高校昭和46年卒）にお話を聞きました。

### 56歳でUターン

萩市小畑で漁業を営む家に生まれ育ち、大学卒業後は帰郷、実家の船に乗り、オイルショックのあたりを受け廃業になるまでの4年間、漁師をしておりました。その後、広島で建築内装業のバイトをし、手に職をつけ身軽な個人経営者として、広島、米子を中心に西日本各地の現場で働いていました。そんな私が萩に帰ってきたのは、今から4年前の56歳の時。一人暮らしをしていた母が足を悪くし、母の面倒を見るため、家内を米子に残し単身帰ってきました。

### 東日本大震災により

萩に帰ってきてからは母と暮らし、規模を縮小しながら内装業をしつつ、久しぶりに会う友人と語り、家内を萩に呼ぶまでは月1回米子へ通う日々を過ごしていました。その頃、友人から中国に行き、日本語学校の教師をしてみないかと誘われ、2011年の3月下旬に中国へ赴任する準備をしていた矢先、東日本大震災が発生。

宮城県石巻市で会社経営（小池産業）をする弟（幾世さん、萩高49年卒）の会社復興のため、中国行きをキャンセルし、石巻に行きました。石巻から帰って来ると、今度は知人から観光パフォーマーの採用試験の話があり、試験を受けてみると、若い世代5人に囲まれて受かっていました。そうして、11年の6月から萩市観光協会と半年間の契約で、萩まちじゅう観光パフォーマーとなります。

### 必死に模索

自らを社交性のある人間だと思っていたので、観光パフォーマーとして活動を始める前は、観光客とお話するのはお手のものだと思っていたのですが、いざ観光地に出向く見知らぬ観光客と接してみると、想像していたものと違い、言葉つかいや身だしなみ、仕事、行動に対し、常に意識しなければならぬ難しさがありました。



また、萩市民からの声も温かいものばかりではなく、観光パフォーマーとしてどうあるべきかを必死に模索した半年でした。

しかし、半年間続けてみると認知度は上がり、観光客にも喜んでもらえ、リピーターが少なからずおられることがわかると、観光パフォーマーの可能性をもっと見定めてみたいと思うようになりました。任期を終えても、ボランティアで維新志士に扮し、観光地やイベントに出向き、冬場の観光客の意見やデータを取ることをしてみました。

### 観光パフォーマーの可能性

2011年に6人だった観光パフォーマーは、12年の正式採用は2人。活動としては縮小しましたが、維新志士に扮装し、共に活動をしてくれるボランティアの方が増え、観光客の満足度を下げることなく、動きやすくなりました。

### プロフィール

1952年（昭和27）生まれ。光塩学院初等部卒、第一中学校卒、萩高校昭和46年卒、日本大学農獣医学部水産科卒



高杉晋作誕生地で湯原美和（塩屋町、萩光塩学院卒）さんと

萩のPRとおもてなしの充実のため、2011年6月に結成された「萩まちじゅう観光パフォーマー」。維新志士に扮して萩城下町、松陰神社など観光地を歩き、ゆかりの地への道案内や写真撮影に応じるほか、市内外のイベントにも出向き、今までの萩にない新



**東京指月会** 元会長の三隅田良吉さん(左)、  
新会長の陽捷行さん



**光友会** 萩光塩学院同窓会関東支部会長の  
鳥切和美さんと役員の皆さん



**つばき会** 平成24年卒の中谷由貴さん(左)、  
23年卒の濱本真衣さん

### 第4回 萩在京高校同窓会 10月27日 日本工業倶楽部 (東京都)

平成12年に始まった萩在京高校同窓会は、4年に1度オリンピックの年に開催されます。萩高校の東京指月会、萩商工高校のつばき会関東支部、萩光塩学院の光友会を合わせて計333人が参加しました。

東京指月会では、浅野<sup>あきの</sup>哲<sup>あきつゆき</sup>会長に代わり、みなみかつゆき副会長(14期、昭和37年卒)が新会長に。元会長の三隅田良吉さん(萩中42期、昭和17年卒)は、卒業から70周年で表彰されました。つばき会では、最近卒業したばかりの同窓生も出席。今年の引受期は、萩高34期(57年卒)、代表の中座克之<sup>なかざ</sup>さんほか35人(うち萩から10人)が参加しました。東京指月会は来年、創立45周年を迎えます。



引受期代表の中座克之さんを中心に萩高34期(57年卒)の皆さん



### 第7回 萩同郷会 11月4日 大阪弥生会館(大阪市)

河村建夫議員と  
三見出身の皆さん



萩光塩学院卒業生を中心に

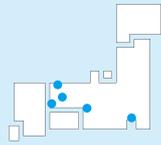
関西在住の萩関係高校の卒業生でつくる「萩同郷会」が開催され、萩高、商工、光塩学院のほか奈古高、長門高を含め85人の参加。4年に1度の開催で今年は7回目、発足して24年になります。当初は、関西地方で活躍されている方に萩市への企業誘致をお願いする趣旨で始まりました。乾杯の音頭は梶山高志さん(萩商業高28年卒、ビケンテクノ会長)、かつて商業の日隈広吉先輩に誘われて同郷会に参加された話を披露。会場には萩から直送されたちくわや金太郎(ヒメジ)など海産物も並び、売り切れの人気でした。

### 第20回 東京須佐弥富会 11月17日 日立金属 高輪和暁館(東京都港区)



益田家の益田路子さんも出席

発足して今年で20年、56人が出席。前会長の近藤安弘さんのご尽力で東京芸術大学生によるピアノとバイオリン演奏で開幕。須佐郷土史研究会の東京部会、栗山展種<sup>のぶたけ</sup>さんの講演「須佐の古地図について〜江戸時代末期の古地図」もありました。東京部会(会長 尾木純さん)は毎月第4日曜に帝劇地下の神戸大学東京六里クラブで月例会を開催され、11月で146回を数えることが紹介されました。来年は、須佐出身で時刻表の父といわれる手塚<sup>たけまさ</sup>猛昌の生誕160年にあたり、地元須佐では記念事業が計画されています。



会員投稿 

10月19日

萩商工高 土木科  
昭和35年卒 同級会

萩本陣(萩市)

例年通り児玉明先生御出席のもと、今回は池田誠次つばき会会長を招き、8回目の同級会を開催した。昨年は“舞い”を披露したいと言っておられた先生が、謡の中の「高砂」と「狸々」を80歳を過ぎた方とは思えない、凛とした御姿、張りのある声で、舞を舞われた。若さの秘訣は、声を出し身体を動かす事にあり、10歳若い我々も大いに活力をいただきました。2次会は午前0時過ぎまで学生時代に帰り盛り上がった。

来年は10月18日(金)萩本陣で予定。

藤村宏祐(下関市在住)



会員投稿 

10月25日

萩高11期 最後の同窓会  
(昭和34年卒)

萩本陣(萩市)

還暦同窓会、古希同窓会と無事にすませ、今まで隔年で開催してきた同窓会を「最後の同窓会」と銘打ち88人の出席でした。

会が長く続けてこられたのも同窓生の萩本陣大女将の松村美代子様のお陰です。「日残りに暮るにあらず未だ遠し」そんな思いを強く持ち、これまで同窓会が心を耕し、人生の延命に役立ったものと確信しています。同窓会の残金30万円は、11月20日、現在修復中の「重要文化財大照院保存会」に寄付させていただきました。

会長 西元勇(萩市大井)



山口指月会

10月18日  
翠山荘(山口市)



55人が出席。毎年、萩高校の開校日の10月18日に開催。「全国に先駆け山口で始めて『指月会』という名称を付けた。山口指月会は、大変歴史のある会」と東章山口指月会会長。幹事長は中原重正さん(昭和57年卒)

つばき会下関支部・巴城会合同

11月22日 南風泊漁港活魚センター(下関市)



36人が出席。「人間は目標を持って楽しく過ごす事が大切。今日の同窓会は、その楽しい日のひとつ」と松村久つばき会下関支部長。「巴城会も合同で行うことで灯を絶やさないう頑張る」と藤田薫巴城会(指月会下関支部)会長。事務局長は原嘉昭さん(平成2年卒)

# 山根正次とその時代

日本の黎明期、明治の時代に衛生行政と法医学の世界に新しい概念を導入して「民生の安定・発展」に尽くした医政家で「公衆衛生の父」と呼ばれた山根正次について、実孫山根寿代さんの記憶と洞察をもとに回顧したいと思います。

## 山根寿代さんのこと

山根寿代さんは、1918年(大正7)生まれで、今年94歳になります。80歳で欧州旅行を楽しむなど今なお好奇心旺盛で健康な日々を送っておられます。

「私の覚えている祖父山根正次は、最晩年の頃で、文字通り私のおじいちゃまで優しい子供好きでした。どのような祖父であったのか、彼の人生を知るのはずっ



と後になってからです。」

「私は、祖父の出身地・萩には子どもの頃何度か行ったことがあります。祖父は生前、幕末維新期に活躍した吉田松陰をはじめ志士たちの書を熱心に収集しておりました。先年、私も高齢になりましたので、資料を祖父のふるさと萩の博物館に寄贈いたしました。その縁で萩には近年何度か伺っています。田床山の展望所から街が一望できます。そこに立つてみて、とっても不思議に思ったのです。この狭いところから、なぜあんなにも多くの維新の偉人が出たのかと。祖父もまた、この地に生まれ育ち、羽ばたいたのだと思うと何か不思議な感慨が湧きました。」

## 山根正次の生い立ち

山根正次は、萩藩医山根孝中の次男として1857年(安政4)に萩城下で生まれました。毛利藩の医学で蘭学を修め、旧制の萩中学校ではドイツ人教師ラインホルト・ヒレルからドイツ語を学びました。明治初頭に毛利家がペルリ



ンのヒレルを招聘したのです。

「祖父たちは、14、15歳の時にドイツ語を習ったわけですね。当時の若者の勉強への取り組みは半端でなかったもので、随分上達が早かったようです。祖父がドイツ語で書いたものを知り合いのドイツ語の先生にお見せしたことがありますが、それはもう完璧なドイツ語だったそうです。祖父はやがてドイツに留学するのですが、明治の人にとって、留学というのは国を背負っていますね。意気込みからして違う。物事、やる気があるとないとでは大違いでしょう。そんな祖父なのに、子孫の私共は全然だめですけどね。」

## 長崎時代とコレラ病

「祖父正次はその後、東京大学医科大学を卒業して、明治15年(1882)に長崎医学部に一等教諭として赴任したのです。長崎行きを命じられたときの辞令が残っています。「月給金百貳拾円支給候事」と書かれておりまして、明治15年の120円がどれほどの

価値のものか、きつとすごいお金だったと思いますよ。学校では、

病理学、内科学、婦人病学を研究したそうです。この頃、長崎周辺でコレラが大流行し、祖父は連日コレラ患者の診療に追われたというものでしたが、伝染病予防委員としてコレラの病理解剖にも取り組んだそうです。コレラ菌は、すでにロベルト・コッホが発見していましたが、治療法はまだ確立していなかった時期で、コレラの猛威で全国で10万人以上が死亡したそうですよ。祖母の話では、コレラ菌は長崎に入港した外国艦の水兵さんから初めて日本に入ってきたのだそうで、祖父は28体の遺体を解剖したそうです。28体だったことを覚えているのは祖父が28歳だったからだ、祖母は笑いながら話してくれました。私の父山根勉一は、明治17年に長崎に生まれましたから、丁度コレラ禍の最中で、祖母は祖父と父の健康に随分と心を痛めたのだといいます。祖父は、明治20年にその成果を「コレラ病汎論」として刊行しました。実地研究書としては日本で初めてのことだったそうです。この時の経験から、祖父は衛生管理の重要性を感じ、長崎市に上水道を整備するよう提言したそうで、長崎市はそれを受け入れ明治24年に近代的な水道が建設されました。横浜や函館に次ぐごく早い時期での整

備だったと聞いています。」

## 欧州留学のこと

「祖父は、長崎での経験から先進的な公衆衛生学や法医学の導入の大切さを感じたのだといえます。それで同郷の先達でもある山田顕義司法大臣にそのことを建議したのだそうで、洋学の導入に積極的だった山田大臣は早速これを聞き入れ明治20年に欧州留学が下命されたのです。当時医学はドイツ医学が主流でしたから、祖父もまたベルリンを中心に欧州各地で法医学と衛生行政学を学んだのです。私は、10年ほど前、ベルリンに旅して祖父の留学時代の空気に触れたことがあります。そしてルーイーゼン通りの森鷗外記念館を訪れた時のことです。館内で手紙や写真を見ておりましたら、「石黒忠恵を迎えた医学留学生たち」という大きい写真が目に入り、その中に祖父がいるのが判りました。エーツと思いました。祖父山根正次と森鷗外、ジョン万次郎の長男中浜東一郎、北里柴三郎など19人が一緒に写っていてとても印象深く感じました。維新政府は、大急ぎで西欧化を目指し、多くの留学生を派遣していたのです。一枚の写真から、異国の地で日本を背負って奮闘していた若者たちの姿が想像され、その中に若き日の祖

父がいることにとっても感銘を受け、また誇らしくも思いました。写真といえば、明治33年10月、祖父がパリ万国博覧会への出張の途次、ヒレル家を訪ねたときの写真があります。ヒレルを中心にした微笑ましい画面で、女性が一人います。この女性は、ヒレル一家が萩滞在中に生れた長女で、名前を「オヨネ」というのだそうです。それは、ヒレル家の女中「お米」からとつたのだと聞き、ヒレルが異国の地萩に、そして「オヨネ」さんに親しんでいたんだな、と嬉しい気持ちになったものです。」

「それから、祖父はベルリンで、尊敬していた乃木希典陸軍少将(当時)に会ったのだといえます。異国の地での同郷の誼(よしみ)ですからすっかり打ち解けて、帰国後にも親交を結んだそうです。そうした縁から、乃木さんのお二人のご子息が陸軍士官学校に入られる時、祖父が保証人を務めさせて頂いたという事です。乃木大将への尊敬は格別で、著作もあり、また自分の選挙の時の演説も殆ど乃木將軍の話だったという逸話が残っています。日露戦争ではお二人のご子息とも残念なことでした。」

### 警察医長・局長の時代

「祖父は、明治24年(1891)にドイツから帰国すると、警視庁

警察医長に任じられました。それは、警察組織に新しい保健衛生の知識と指導方法を指導するものでした。当時は厚生行政も警察が担当していたのです。そのあと警察医務局長や検疫委員長などを歴任しています。そうしたことで、祖父は多忙で家にいることは殆ど無かったようですが、筆まめな人で『きようは三等艦に行き東郷平八郎元帥にお会いした』など外出先から叔母達に葉書をよこしていたという事です。下落合の家から麹町の富士見町に移ったのは明治37年ごろで、書生さんを10人ほどお預かりして学校に通わせていて、主人の留守がちな家でしたが毎日活気に溢れていたといえます。」

「叔母の話では、書生さんの中にあの松岡洋右(ようすけ)さんがいて、食事時にはお部屋の前で『ごはんですよ』と声掛けしていたそうです。警察医長のときの『伝染病流行と公德』と題した講演の講話録が残っています。『諸君、私は山根正次であります。大きな男であります。どうかお見知りおきください。今日は北里柴三郎博士のご出演をいただいております。さて……』と始まっていて、冒頭だけでも祖父の人物がうかがえます。著書も『裁判的及び警察的医事に就いて』『医権論』『簡明法医学』など多数あります。」

### 萩の人たちとの交流

「祖父正次は、萩人との交流を大切にしていたように思います。それが判るのは、祖父宛の書簡です。野村靖や品川弥二郎、伊藤博文、山県有朋、楫取素彦、乃木希典、桂太郎、寺内正毅、末松謙澄、山県伊三郎、井上馨、山田顕義といった方たちからのもので、内容は硬軟ありますが祖父が萩人脈と深く交っていたことの証でしょう。職務上のことではありませんが、明治25年11月に、同郷の先達、山田顕義司法大臣が、視察先の兵庫県生野銀山で亡くなられた時の死亡診断を行ったのは、祖父でございます。故郷とのかかわりで申せば、尊攘堂のことに触れておかげばと思えます。品川弥二郎さんが、吉田松陰先生の志を顕彰し、勤王の志士の霊を祀る尊攘堂を明治20年に開設したのだそうですが、明治33年に品川さんが亡くなったため、保存委員の松本鼎さんや嗣子の品川弥一さん、野村靖さんは、所蔵品の全てを京都大学に寄贈して、学内に尊攘堂を新築することにしたのだそうです。それで、新たな運営委員として祖父山根正次も山県伊三郎さんと中村精勇さんら同郷の方とともに加わり、毎年松陰忌と品川忌に、勤王諸烈士の祭典、を執り行ったといえます。」

祖父はきつと故郷の先達に関わるお世話が出来たことを喜んでいたと思うのです。」

### 医政家としての正次

「祖父は、明治35年に勧められて山口選挙区から衆議院選挙に出馬し当選しました。当時の防長新聞を拝見しますと、山口の郡部選挙区は、立候補者15人で当選者は7人、無所属の祖父のほかは皆政友会所属でした。新聞は『山根氏は椿郷村の出身にして現に警察医長たり。しばしば欧米に歴遊し学殖深遠なり』と評しています。この時の内閣は、総理大臣が桂太郎、大蔵大臣が曾根荒助、陸軍大臣が児玉源太郎、書記官長が柴田家門と同郷の方たちでした。祖父は、医師出身の代議士として、今という厚生行政面で活動し、明治39年の帝国議会に懸案だった『医師法案』を提出し医師法を成立させました。明治37年、祖父は請われて『私立日本医学学校』の創設に参画し、初代校長に就任しました。当時の医学行政はまだ過渡期で問題が多かったようですから、諸々の取りまとめには、医政家の祖父が適役だったのでしょう。現にその後、経営不振に陥った東京医学学校を合併したりと大変だったようです。それでも、いま立派に発展した『日本医科大学』を眺め

### 晩年の祖父

「祖父は、明治43年の韓国併合前後は、衛生顧問として韓国内の公衆衛生の啓発に努め、さらに大正6年には、国会の維新会議員の代表として米國を視察するなどにしました。大正7年1月、萩に帰郷して明倫小学校で町民に訪米帰朝報告会を開いたということですから。」

「祖父は、大正9年(1920)、6期務めた衆議院議員を引退しました。そして、ライフワークの公衆衛生のお仕事を今度は民間の立場でと、特許消毒株式会社を設立してその経営にあたり、穏やかな民業の日々を過しました。祖父は、新しい文化が欧米から怒濤(どとう)のように押し寄せた発展期の明治期に、多くの同郷の方々が近代日本の建設に努められたように、祖父もまた医学の知見を国民生活に取り込む、公衆衛生の分野で大いに奮闘し、足早に駆け抜けたように思えます。『公衆衛生の父』と呼ばれた、私のおじいちゃん山根正次は、大正14年8月永眠いたしました。69歳でございました。」

(高木正照 エッセイスト 日本ペンクラブ会員)

# 情報アラカルト

## 北海道

### ■納富晋 作陶展

1月15日(火)～21日(月)  
札幌市中央区南1条西3・8  
札幌三越本館 9階三越ギャラリー  
(011・271・3311)

## 東北地区

### ■岡田裕 作陶展

1月24日(木)～29日(火)  
宮城県仙台市青葉区一番町3・2  
・17 藤崎本店7階  
(022・261・5111)

## 関東地区

### ■山口県うまいもの市

忠小兵衛のかまぼこ等が販売されます。

1月17日(木)～23日(水) 午前10時～午後9時(日曜日は午後8時まで)  
東京都豊島区西池袋1・1・23  
東武百貨店池袋店 地下3階地権事場(03・3981・2211)

### ■三輪壽雪・休雪 ― 破格の創造 ― 展

三輪壽雪の代表作「鬼萩窯変割高台茶碗」など7点と、12代休雪の「ハイヒール」など初期の作品から近作の「龍人伝説」にいたる38点を展示。父子二代の「破格

の創造」。

1月19日(土)～3月31日(日)

東京都港区虎ノ門4・1・35西久保ビル 菊池寛実記念 智美術館  
○地下鉄 日比谷線「神谷町駅」  
南北線「六本木一丁目駅」、銀座線・南北線「溜池山王駅」から徒歩6～8分



### ■伝統的工芸品展WAZA 2013

萩焼をはじめとする日本の伝統工芸品が一堂に会し、展示・販売。  
2月14日(木)～19日(火)

東京都豊島区西池袋1・1・25  
東武百貨店池袋店 8階催事場  
(03・3981・2211)

## 中部地区

### ■兼田昌尚 作陶展

1月16日(水)～22日(火)  
愛知県名古屋市中村区名駅1・1・4 JR名古屋高島屋  
(052・566・1101)

## 関西地区

### ■金子信彦 作陶展

1月9日(水)～15日(火)

大阪府大阪市北区角田町8・7  
阪急百貨店梅田本店 7階美術画廊  
(06・6361・1381)

### ■納富晋 作陶展

2月20日(水)～26日(火)  
大阪府大阪市北区梅田3・1・3  
JR大阪三越伊勢丹 6階美術画廊  
(06・6457・1111)

## 中国地区

### ■内村幹雄 作陶展

1月16日(水)～22日(火)  
岡山県岡山市北区表町2・1・1  
天満屋岡山店 5階美術画廊前  
アトスベース  
(086・231・7111)

### ■兼田知明 作陶展

2月20日(水)～26日(火)  
岡山県岡山市北区表町2・1・1  
天満屋岡山店  
(086・231・7111)

### ■萩焼・岡田泰 作陶展

1月24日(木)～30日(水)  
島根県松江市朝日町661  
一畑百貨店 5階美術サロン  
(0852・55・2500)

## 九州地区

### ■開業45周年記念 守繁 栄徹・徹 徹千代「舞」展

1月17日(木)～22日(火)  
長崎県佐世保市栄町2・1  
佐世保玉屋  
(0956・233・8181)

## 山口県関係

### ■備前・萩二人展

兼田知明の作品が展示されます。  
1月2日(水)～8日(火)  
山口市中市町3・3  
井筒屋 5階美術ギャラリー  
(083・902・1111)

### ■グループ展「Decor」空閑茶天

大屋窯の陶芸作品、田村覚志(TAZZ)の線描画作品が展示されます。  
3月1日(金)、2日(土)  
防府市上天神町6・17 空閑茶天  
(0835・22・0073)

### ■ペアティル・ペアソン 作陶展

3月22日(金)～26日(火)  
山口市後河原121  
Cafe & Gallery ラ・セーヌ  
(0838・25・2693)

## 萩市関係

### ■藤崎恒頼 新作展(洋画)

1月17日(木)～22日(火)  
萩市江向440・1  
萩郵便局コミュニティルーム  
萩郵便局

### ■80周年記念 萩美術協会展

萩美術協会会員と物故作家の作品(絵画・書・写真・工芸など)を展示。  
3月1日(金)～10日(日)  
入場料200円  
山口県立萩美術館・浦上記念館  
(08338・24・2400)

## 第59回 日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、岡田泰、兼田佳炎、玉村登陽、野坂和左の作品が入選しました。  
◆高松展 1月2日(水)～20日(日) 香川県立ミュージアム立美術館  
◆福岡展 2月6日(水)～11日(月) 福岡三越  
◆松山展 2月19日(火)～24日(日) 松山三越  
◆広島展 2月27日(水)～3月17日(日) 広島県立美術館

### ■萩美術館・浦上記念館 常設展示

○陶芸「生の愉悅を物語る」と「三輪休雪」(1月2日～6月16日)、「萩焼の近代」(1月20日)、「萩焼の茶陶」(1月22日～6月16日)  
○東洋陶磁「東洋陶磁の美(釉)」(2月24日)  
○浮世絵「雪月花―雪―」(1月20日)、「溪斎英泉」(1月22日～2月24日)

## テレビ情報

■NHK正月時代劇「御鍵拝借 酔いどれ小次郎留書」  
1月1日(元旦) 午後7時20分～8時48分、NHK総合テレビ  
■TBS「ATARUSスペシャル」  
2ニューヨークからの挑戦状!!

1月6日(日)午後7時~11時8分  
TBS系列(全国)

萩市出身の俳優、松本実さんが、  
山賊の役(御鑓拝借)で、また刑  
事役(ATARU)で出演。

### ■NHK大河ドラマ「八重の桜」

東北の会津藩を舞台に、主演は  
綾瀬はるか。吉田松陰役は小栗旬、  
木戸孝允役は及川光博。萩の堀内

## 新規(再)加入会員

- 多田信嗣さん(神奈川県横浜浜市)
- 中村貴宏さん(神奈川県相模原市)
- 伊藤淳子さん(東京都府中市)
- 貞光祐二さん(東京都板橋区)
- 小田薫さん(東京都西東京市)
- 佐伯智美さん(大阪府堺市)
- 榎屋美恵子さん(大阪府茨木市)
- 川尻正治さん(和歌山県和歌山市)
- 中野育代さん(大阪府堺市)
- 山本由美子さん(大阪府大阪市)
- 田邊満代さん(大阪府大阪市)
- 豊田節子さん(滋賀県大津市)
- 堀田均さん(兵庫県明石市)
- 安光正文さん(阿武町)
- 岡美代子さん(東京都多摩市)
- 野坂正隆さん(東京都豊島区)
- 橋本悦子さん(千葉県鎌ヶ谷市)
- 仁保宗和さん(茨城県取手市)
- 田野良子さん(東京都町田市)
- 松井三郎さん(東京都杉並区)
- 光永早苗さん(神奈川県秦野市)
- 橋本和子さん(山形県酒田市)
- 岡本肇さん(埼玉県所沢市)

鍵曲、菊ヶ浜、城下町などでロケ  
が行われ、次の日程で放映予定。  
お楽しみに。

▽第1回(1月6日)「ならぬこ  
とはならぬ」、第2回(1月13日)  
「やむにやまれぬ心」、第5回(2  
月3日)「松陰の遺言」、第6回(2  
月10日)「会津の決意」

- 阿部哲夫さん(下関市)
  - 溝口春江さん(周南市)
  - 佐々木健太さん(愛知県豊田市)
  - 松浦照三さん(萩市)
  - 為頼豊さん(愛媛県松山市)
  - 藤谷恒夫さん(大阪府大阪市)
  - 牛坊千寿枝さん(神奈川県横浜浜市)
  - 澤本剛成さん(神奈川県横浜浜市)
  - 松崎修子さん(広島県広島市)
  - 福永保夫さん(広島県広島市)
  - 秋田望さん(福岡県福岡市)
  - 坂本哲宏さん(山口市)
  - 上村輝夫さん(山口市)
  - 池田好博さん(福岡県宇美町)
  - 佐藤光恵さん(兵庫県尼崎市)
  - 眞淵瑤子さん(大阪府豊能町)
  - 木下美恵子さん(大阪府豊中市)
  - 前原和子さん(大阪府東大阪市)
  - 川口まり子さん(東京都足立区)
  - 増野信二さん(愛知県刈谷市)
  - 大賀司郎さん(神奈川県川崎市)
  - 田村哲夫さん(東京都東久留米市)
  - 松名政昭さん(下関市)
- (10月25日~12月24日46人)

## 出版情報

■「道の駅「萩しーまーと」が繁  
盛しているわけ」 中澤さかな

歴史のまち・海のまち・食文化  
のまち、萩で生まれた公設市場型  
の道の駅「萩しーまーと」。これ  
までにない発想による店舗づく  
り・運営で全国から脚光を浴びて  
います。

地産地消の仕事人、中澤さかな  
さんが道の駅・活性化ビジネスを  
教えます。道の駅「萩しーまーと」  
の店づくり・商品開発・地域ブラ  
ンディング・情報発信のアイデア  
が満載。「この一冊には、現場実  
践者でないと書けない超具体的な  
ハウトゥが惜しみなく公開されて  
いる」と野村萩市長もPR。



価格 1470円  
合同出版

### ■「人をつくる」

須郷昌徳

萩市出身の須郷昌徳さん(福岡  
県在住・72歳)の半生記が、産経  
新聞の「人国記・人をつくる」と  
して平成23年4月から5月まで31  
回にわたり掲載され、人国記を中  
心とした単行本に。

日本では初めてという倒産同然  
の西日本短期大学と西日本付属高  
等学校の再建に尽力され、今日も

教育・スポーツ面で優れた学生・  
生徒を世に送り出しています。

須郷さんは、元西日本短大付属  
高校校長で、小川出身(昭和34年  
萩高校卒)です。野村萩市長も  
「地方が創る明日の日本」と題し、  
寄稿しています。



価格 1500円  
産経新聞生活情報センター

### ■「萩殺人事件」

内田康夫

萩市で起こった殺人事件に探  
偵・浅見光彦が挑む推理小説、浅  
見光彦シリーズ。

価格 1785円

出版社 光文社

### ■産経新聞 連載小説「高杉晋作 伝(紅と白)」

関厚夫

産経新聞に2012年10月から  
連載中、著者は同紙文化部の編集  
委員。

### ■山口新聞 連載小説「吉田松陰 大和燦々」

秋山香乃

山口新聞に2012年12月11日  
から連載中の歴史小説。著者は02  
年に作家デビューし、05年から  
06年まで同紙で「晋作 蒼き烈日」  
を連載。

幕末の志士たちの精神的支柱と  
なる「大和魂」の形成に大きな影  
響を与えた松陰若き日の旅を描き  
ます。著者は、「松陰のすべての

行動の根底にあったのが誠実さ  
だったように思う。だからこそ同  
じ時代の多くの人々の心を打ち、  
日本という国の有り様を変え得た  
のでしょう」と述べています。

## プレゼント

- ①山田フルーツファームの萩ワイ  
ンを2名様。
- ②井上商店の「しそわかめ」2袋  
を2名様。

■応募方法 ハガキに品名、住所、  
氏名、電話番号、近況等を明記の  
うえ、萩ネットワーク協会プレゼ  
ント係まで。1月末日(消印有効)。

## TAKE Create Hagi(タケ・クリエイト・ハギ)と 中田英寿さんのTAKE(テイク)ACTION FOUNDATIONが 「竹」をテーマにコラボ!

サッカー元日本代表の中田英寿さんが代表理事を務める財団  
「TAKE ACTION FOUNDATION」(東京都)が、竹をテーマに「チャ  
リティー・ガラ」と呼ばれるオークションを開催し、独自の曲げ加  
工技術で竹製家具を作っている TAKE Create Hagi(0838・22・  
0058)が参加します。オークションは2月9日(土)に横浜ロイヤル  
パーク(みなとみらい)、会費 75,000 円で招待客のみ。

# イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838・25・1750

～3月31日(日)

## ◇萩・まちじゅう味めぐり

萩温泉郷 湯めぐりキャンペーン 市内各所

2月3日(日)～4月3日(木)

## ◇萩城下の古き雛たち

旧久保田家住宅ほか

2月16日(土)～3月31日(日)10:00～16:00

## ◇萩・椿まつり

笠山椿群生林

3月3日(日)10:00～

山口県漁協萩地方卸売市場  
道の駅「萩シーマート」

## ◇萩・しろ魚まつり

3月10日(日)10:00～

山口県漁協萩地方卸売市場  
道の駅「萩シーマート」

## ◇萩の真ふぐまつり

3月16日(土)9:00～

萩往還

## ◇萩往還ワンデーウオーク 2013

## 萩まちじゅう味めぐり

旬の萩魚を中心に萩ならではの料理を楽しめます。旬の地魚を使用した料理「萩沖・旬地魚グルメ」、あまだい、真ふぐ、ぶり、見蘭牛、むつみ豚など萩産食材のみを使用した「長州しゃぶしゃぶ」。参加店舗は31店舗。

## 萩温泉郷湯めぐり キャンペーン

寒い冬にぴったりの萩温泉郷の日帰り入浴が割引になります。萩温泉日帰り入浴施設は8施設。

▷萩たなかホテル、萩一輪、萩本陣・湯の丸、萩グランドホテル天空、萩小町、萩の浜、田万川温泉憩いの湯、萩阿武川温泉ふれあい会館

## 萩城下の古き雛たち

江戸時代から現代までの雛人形約1,000体を展示。

### ■開催場所(予定)

菊屋家住宅、旧久保田家住宅、萩博物館、青木周彌旧宅、口羽家住宅(城下町)、旧山中家住宅、梅屋七兵衛旧宅、旧山村家住宅(浜崎)、旧湯川家屋敷、旧田中別邸、田町商店街、渡辺高蔵旧宅  
■萩市文化財施設1日券 300円

## 萩・椿まつり

笠山椿群生林で約25,000本のヤブツバキの見頃にあわせて開催。

<期間中の土・日曜日、祝日>

- 椿見どころ案内人
- ワンコインフォトサービス(100円)
- 萩椿小町
- 萩の特産品販売
- 萩椿クイズラリー

冬だから楽しめるグルメ、イベント、温泉が揃っています！

# 冬のぶらり萩あるき



お得なクーポンがついた「2013年冬のぶらり萩あるきパスポート」が発行されました。  
(問) 萩市観光協会 サイト「ぶらり萩あるき」<http://www.hagishi.com/>



2012年6月、第3回「ウェディングフォト・アワード2012」のアルバムストーリー部門で横井守貢さん(36歳、萩市土原・光洋写真館)の作品(20枚の組み写真)が金賞を受賞しました。

「昔の婚礼は、家で支度をして出発し、近所の大人や子どもたちがその姿に憧れ、幸せのおすそ分けをいただいていた。その風習が残る見島の結婚式は、人と人のつながり、温かさ、優しさを強く感じ、すべてが新鮮でした」

(マキタオ モリツグ)



受賞式で桂由美さんとマキタオさん